

風土記の丘の花だより²³⁷

今、そしてこれから見られる植物(2024年5月29日)

「春されば 卯の花ぐたし 我が越えし 妹(いも)が垣間は 荒れにけるかも」 こんな万葉歌がありましたね。卯の花ぐたし とは、せっかく咲いた卯の花(ウツギ)を散らしてしまう雨のことだそうです。風土記の丘でも、月曜日から火曜日にかけての大雨で散ってしまいました。



雨が降ってうっとうしい日でも、ドクダミの白い花はとても鮮やかに、そして爽やかに咲いています。庭の草むしりの時は臭いし、地下茎が長いし、やっかいな草ですが、改めて花を見てみるととても美しいです。でも、厳密に言うと。白い部分は花びらではありません。真ん中の黄色っぽい所が小さな花が集まったものなのです。ですから、ドクダミの花には花びらがないことになります。葉の形もハート型でとてもかわいいし、お茶にも、薬にもなる有用な植物です。



この前まで咲いていたハルジオンがほとんど見られなくなり、今はヒメジオンが咲いています。植物観察を始めた頃はどなたも違いがわかりにくく、よく間違える両者です。ちょっとかわいそうですが、茎を折ってみてください。茎の中が詰まっていたり空洞になっていません。そんなことを何回か繰り返すと、折らなくても、見ただけで区別できるようになることでしょうか。このよく似た雑草はどちらも北アメリカ原産の外来植物(帰化植物)ですが、もうすっかり日本の風土になじんでしまっていますね。



ネズミモチも白い花を咲かせています。花はいい香りがし、晴れた日には多くの虫たちが集まってきます。モクセイ科の木で、身近なものでいうと、キンモクセイやヒイラギなどと同じ仲間です。植物の名前に動物の名前が用いられることはよくありますが、この「ネズミ」はネズミそのものではなく、ネズミの糞のことです。実が黒くて細長いので、それをネズミの糞に見立てて、付けられた名前です。この木としては、嬉しくないでしょうね。



この少し黄色みをおびた小さな花はヤブニッケイという木の花です。クスノキ科の木で、クスノキと葉の感じがとてもよく似ていて、3本の葉脈がよく目立ちます。藪に生えるニッケイ(につき)という意味です。クスノキ科の植物は独特の香りを放つことがよくありますが、あるとき子どもたちに「ヤブニッケイはどんな香りがしますか」と尋ねると、今時の子は、につきには余り馴染みがないのか、「コココーラのおい」と答えられたことを思い出します。一度葉をもんで香りをかいでみてください。 松下